

全体に共通する論点について		意見交換会での意見等を踏まえ、全体に共通する論点について、本評価委員会においても一定の議論が必要と思われる事項を以下のとおり記載する。			★ … 課題に対する取り組みや考えられる解決策
第1 比較的短期間で解決が目指せそうな事項	論点（キーワード）	吉祥寺東	本宿	吉祥寺南町	御殿山
	1 周知・広報(コミセンの認知度等についての市への要望) ■ コミセンの存在の周知 ■ ボランティア運営であることの周知	・転入者にもコミセンを知ってもらいたい。 ・転入者に渡すコミセンガイドも廃棄されているかもしれない。 ★転入者にチラシをポスティングすることも検討中。	★防災月間に、災害時の対応について利用者に説明している(その時に運営がボランティアであることも説明)	・意外とボランティアと知らない人が多いのではないかと。 ・窓口担当が市職員だと思われると壁を創られてしまう。	・コミセンがボランティアで運営されていることを知らない方が多い(特に市外の方)ので、そのことをもっとPRしてほしい。 ・窓口担当が市の職員と勘違いされている。 ・貸し会議室のようなサービスを求められる。
	2 営利・非営利の考え方の整理 ■ 営利／非営利の判断の指針の提示 ■ より柔軟な考え方の許容				・サークルとして利用申請があっても、実際には有償教室であることがある
	3 手当について ■ 手当の増額			・報酬が安く、拘束時間と考ええると若い人は誘えない	・手当の見直しは必要 ・現状の手当の額を聞いて辞める人もいる
第2 持続的に検討が必要と思われる事項	4 庁内各課との相互理解について ■ 市民活動推進課以外の職員のコミセンへの理解 ■ 庁内調整				
	1 ボランティア活動への評価(やりがい) ■ コミセン運営の特徴やすごさのPR ■ ほめる	・市に、ボランティアが行っているコミセン活動(コミセンの管理運営)をほめてほしい。	・良いことをしているので、褒められていいという意見に賛同。そういう意味で市にはPRしてほしい。	・武蔵野のコミュニティの特徴とコミセンのユニークさを市民にアピールし理解を広げてほしい。	
	2 人材の確保・拡充 ■ 人材の確保・拡充 ■ 年齢層の偏り ■ 企画力のある人材がほしい ■ 若年層へのアプローチ ■ 学生の活躍 ■ 窓口担当の人数不足(やりくりが負担) ■ 多様な参加方法の取組み	<学生> ★子どもの頃利用していた学生が運営委員になり、施設の利用状況を踏まえて必要な企画を自発的に出してくれる。 ★マニュアルがあると、学生も窓口に入りやすい。 ★高校生にも、大人扱いして窓口に入ってもらうことで学生も成長する。	<人材募集> ・募集をかけても人が集まる時期ではない。 ・HPの他、X等で取組みの紹介や運営協力をお願い等を情報発信していきたい。 ★実際には、知り合いの一本釣りが多い。 ★運営委員募集のポスターの張り出した。 ★コミセンの利用者にお声掛けする。 ★住民総会に限らず、通年いつでも運営委員になれるようにした。 ★PC対応など、一時的にでも関わってくれる人が、関りを続けられる規則にしたい。 <窓口担当> ・窓口担当の2人の確保に四苦八苦(1-3時間などで工夫)。 ・窓口業務が負担なのではなく、人のやりくりが負担。 ・会議に出られないと運営委員になれないという条件は難しい。 ★市から臨時で窓口の手伝い(穴埋め)に来てほしい。	<人材募集> ・利用者はたくさんいても、運営に関わろうとする人は少ないが、利用者から運営に関わった委員もいる。 ★利用者と顔と名前が一致し、仲良くなってから運営にひっぱりこむ。 ★コミセン利用の子どものママ友に窓口の勧誘をしている。 <企画> ・運営側に若い人が少ないと若者向けの企画が少なくなり、若者のコミセン離れが進む。 ・作業人員はどうにでもなるが、企画力のある人材が少ない。 ・新しく何かやることは腰が重たかったり、皆仕事や役割で忙しい。 ・主催事業以外はなかなかできない。 ★協力事業としてコミセンが場所、資材等提供して実施するというのもあり。	<人材募集> ★窓口担当を募集するチラシをポスティング(いくらか手当が出ることを記載／60代まで) ・高齢者ばかりだと、若い方は入りにくくなりそうなので、窓口は若い人で揃えたい。 <企画> ・企画(チラシやポスターの作成、買い出し等)が大変。 ・講師派遣リストなど、講師していただける方を紹介してほしい。 <窓口担当> ★1人体制の時もある
	3 事務・責任の負担 ■ 役員の負担 ■ 事務負担 ■ 事業を企画する負担	・ITスキルの不足	・役員になると業務が増加し、研連や各種研修に行かなければいけない。 <事業> ・窓口よりは運営企画の方が時間をとられている。 ・企画を立てるのは楽しい。 ・昨年度実施したものを列挙して希望を募るが、全部希望が入ってしまう状況で企画が減らない。		・一部の人に負担がかかり、ボランティアの域を超えている。 ・関わるにつれ、責任も時間的拘束も増えてくる(窓口や会議など)。 <事業> ・お膳立てをして指示を出すなど、事業の企画においても役員の負担が大きい。 ・主に窓口担当として窓口している時間に企画を考えている。役員が窓口担当を担うのは、結果的に運営全体を見ることになる。
	4 多様な利用者への配慮 ■ 利用条件の統一化			・コミセンごとにルールが違いすぎて、一般から見ると不便だと思うので、もう少し統一した方が良いのではないかと。	
	5 ボランティアに関する意識の変化 ■ 興味のあることだけをやりたい意識			・特定の事業への強い意志はあっても別の業務はやりたくない人もいる。	・運営委員は興味のあるところだけ参加する形で、強制できない
	6 企画づくり ■ 各協議会の工夫 ■ 地域住民の声の吸い上げ	・施設が小さく窓口の負担が少ないので、ソフトの面(イベントなど)を充実しないといけないと思う。 ・地域住民の声を吸い上げたいが、それが難しい。 ・住民からの意見を待つ一方、「つとい」ではコミセンとして地域課題に能動的に働きかけてテーマを設定することも必要と考える。	・防災に力をいれて取り組みをしている(防災月間や地域フォーラム等)。	・貸館のための管理運営が中心になってしまう。 ・コミセンが中心になってイベントを実施しても、なかなか地域でのコミュニティづくりに繋がらないので、「南町居場所プロジェクト」等で試行錯誤中。 ・コミュニティ協議会は市の影響下にあり、任意団体のような自由さが無い(市の立場として行っているように思われてしまう)。 ・やってみると、アイデアがうまれたりする。 ・アイデアの積み上げ、ひとつずつの出会いを大切にやってみるとなんとかなる。	
	7 外部との連携・交流 ■ 利用者との交流 ■ 地域団体との連携		・地域の方々と意見交換の場として利用者懇談会を開いている。		・利用者の意向を反映するために独自の利用者アンケートを実施し管理、運営に役立っている。
その他	<その他で挙げられたテーマの例> ■ 広報(市報、市HP、SNS、コミセンだよりなど) ■ 組織特性 ■ 協力員 ■ 地域特性	<市報について> ・2つのイベントしか掲載できないルールがある。 ・半月の間に3～4つイベントがある場合、市民の知る権利を阻害なのではないかと。柔軟に対応してほしい。 <組織特性> ・会議が長くなることが多々あり、やりがいや楽しさから遠のいているという意見あり。	<協力員について> ・運営委員が協力員にコミセンだよりを届け、配布後、状況報告をコミセンにしに来てもらって繋がりを保っている。 ・協力員も高齢化し、祭りの設営が難しくなっている。 ・コロナ禍を経て、コミセン祭りの運営が協力員頼みという意見もある。 <施設予約> ・団体利用の部屋予約の申請者以外が全員市外の時の対応が課題。	<コミセンだより> ・大変だが、地域の情報が欲しい人には結構見てもらえており、地域の活動に繋がっている。 ・他の団体の情報も掲載している。 ・配付に協力してくれる協力員にコミセンにニュースを取りに来てもらっている。 ・ニュース配付が地域の点検活動にもなっている。 ・ニュースの戸別配布をいつまで続けられるか危惧している。	

全体に共通する論点について					
論点（キーワード）		本町	吉祥寺西	吉祥寺北	けやき
第1 比較的短期間で解決が目指せそうな事項	1 周知・広報(コミセンの認知度等についての市への要望) ■ コミセンの存在の周知 ■ ボランティア運営であることの周知		★小学校でコミセンの見学会をしている。こうした子どもたちが利用者になってくれると良い。		
	2 営利・非営利の考え方の整理 ■ 営利／非営利の判断の指針の提示 ■ より柔軟な考え方の許容			・他団体との繋がりを強固にするため、営利、非営利の境界を柔軟に考え、目的が公益的かどうかで考えてはどうか。コミセンは地域の活動を阻害してはならないという考えに賛同。 ・営利団体が地域に貢献することもあるので、営利を制限することにこだわるべきでないと思う。 ・市場価格より提供価格が低ければ非営利という判断基準は間違っていると思う。	
	3 手当について ■ 手当の増額		・窓口当番手当の引上げ	・窓口手当の早期アツプ	
	4 庁内各課との相互理解について ■ 市民活動推進課以外の職員のコミセンへの理解 ■ 庁内調整	・市職員が、年に1時間でも30分でも良いのでコミセンの現場を見てほしい。		・運営に際しての問題を親身になって相談に乗ってくれる市の窓口がほしい。	・公園と持ちつ持たれつ関係と思っている。公園の景観や安全のための取組みに対し、担当部署との調整がうまくいわずに困っている。びくびくして活動すると、ボランティア精神を削がれる。 ・それぞれの主張をぶつけるのではなく、お互いに話したい。 ★市民活動推進課で庁内調整を図ってほしい。
第2 持続的に検討が必要と思われる事項	1 ボランティア活動への評価(やりがい) ■ コミセン運営の特徴やすごさのPR ■ ほめる				★窓口研修など、各館の良さなど、コミセン同士で情報交換も必要だと思う。
	2 人材の確保・拡充 ■ 人材の確保・拡充 ■ 年齢層の偏り ■ 企画力のある人材がほしい ■ 若年層へのアプローチ ■ 学生の活躍 ■ 窓口担当の人数不足(やりくりが負担) ■ 多様な参加方法の取組み	<人材募集> ・運営委員が少ないことと高齢化に、今後続けていけるのか不安。 ・新しい事業の企画を検討するが、運営委員の人数の都合で、ネットワークづくりまでは難しい。 ★新しい人は中々入らないが、地道に声掛けをしている。 ★基本的に知人の一本釣りが多い。 <若年層への期待> ・移転後は若い人が中心になって運営してほしい。 ・今のコミセンのルールは若い人にとって窮屈かもしれないので、世代交代に伴いルールも見直した方が良い。	<人材募集> ・委員構成の偏り(高齢者、窓口の土日夜間手薄) ★ポスターに有償と明記したら人が集まった。 ★運営委員会には出られないが窓口はやれる人など、柔軟な受け入れが人材確保に有効。 <学生> ★大学との連携も実施。	<学生> ・大学生が複数名、運営委員として参加。 ・窓口に学生がいると、ボランティアですかなど、関心をもってもらうきっかけになる。	<人材募集> ・お手伝いはしても一緒に運営しようと思ってもらうのは難しい。 <企画> ・お祭りの手伝いは充足しているが、「何かあれば手伝うよ」というスタンスの人が多く、新しい企画の発案が難しい。 <学生> ★成蹊大学のボランティアセンターと繋がりが複数名来てくれた。学生から、次の人が関わるような仕組みを作りたいと言ってきて、ボランティアセンターにも働きかけた。 ★夏祭りで1つの部屋を大学生に貸して、「準備に係る費用だけ負担するから、好きなことをやってよい」とお任せした。学生も楽しかったと評判だった。 <窓口担当> ・窓口人員が多く、希望を取って割り振り。
	3 事務・責任の負担 ■ 役員の負担 ■ 事務負担 ■ 事業を企画する負担	・運営委員は、様々なボランティア団体から、充て職を求められることがあり負担。 ・ボランティアは楽しくやりたいのに、苦しいことが多かった(特に、研連で使われている言葉がわからないこと)。	<事務負担> ・コミセンの大きな課題は事務職がいないこと。 ・若い女性が辞めていくのもこの事務負担が要因。 ・事務のシステム化が必要。 ・各コミセンの自助努力でシステム化は難しいので、環境整備をしてほしい。 ・業務の電子化が遅れ、効率化と利便性に立ち遅れている。		★小さなことも、あえて係として役割を作り(トイレトパーパー係など)、運営委員一人一人が、そこに何らかの役割があると感じられるようにしている。 ・一から十まで企画すると思うと、負担感が大きく感じるのだと思う。 <事務負担> ・会計や企画などのコアの部分は中間年齢層が担っている(若い人は「入ったばかりで分らない」、ベテランは「年だから任せない」となる)。
	4 多様な利用者への配慮 ■ 利用条件の統一化	・障害を持っている人(精神障害など)が利用されるケースも増えている。市で学習会を高い頻度で実施してほしい。			
	5 ボランティアに関する意識の変化 ■ 興味のあることだけをやりたい意識				・仕事ではないので、コミュニティのことを楽しいと思う人でないと、長続きしない。
	6 企画づくり ■ 各協議会の工夫 ■ 地域住民の声の吸い上げ		・新しい事業にも随時取り組んでいる。中でもみかづき子ども食堂は、子どもやその親との交流の機会として意義も大きかった。 ★放っておくと事業は減っていくので、仕掛けていかないと難しいため、投書箱で意見を求めた。スマホ教室やボッチャの事業がうまれた。	・地理的に周辺に商業サービス業がないので、様々な使われ方をしている。 ・他のコミセンとの差別化をいかに図れるかも日々考えている。	・運営委員の年齢層に運動し、企画に偏りが出る。 ・若年層の向けの企画をどのように用意していくかが課題。 ・地域の人がやりたいことを応援したい(つくれる つながる むさしのセッションから生まれた取り組みを応援するなど)。 ★学生に「やりたいことがあれば、けやき(コミセン)だと思えると思うから持ってきてごらんよ」と伝えてくれた若い運営委員がいた。学生も嬉しかったようだ。 ★コミセンに持ち掛けると、前向きに考えてくれることが伝わるとよい。
	7 外部との連携・交流 ■ 利用者との交流 ■ 地域団体との連携	★地域の清掃活動で、参加者が地域のことを知る、地域の人々と交流する機会ともなっている。	・地域懇談会を実施し地域の団体に参加してもらい、意見交換をしている。 ・PTAとの連携が、次世代の運営委員の有力候補につながる。		・運営委員と地域団体とで、人が重なっており、それぞれの課題を情報共有したり、コミセンの情報を提供したりしている。 ・地域団体の総会やイベントには部屋を優先的に貸し出すなど協力。町会のお祭りにコミセンも関わっている。
その他	<その他で挙げられたテーマの例> ■ 広報(市報、市HP、SNS、コミセンだよりなど) ■ 組織特性 ■ 協力員 ■ 地域特性	<地域特性> ・利用者は多いが、市外の人が多く、利用に地域性が薄い。 ・マンションは多いがこの施設の運営への参加や利用は少ない。 <その他> ・災害時に向け飲料水や簡易トイレ等の備品を手配してほしい。	<市HP> ・市HPでコミセンのページが深く、探しづらいため改善してほしい。	<市の仲介> ・元役員から4回に渡り施設の運営等について投書があった。利害関係者同士で調整するのは困難なので、市が間に入ってほしい。 <その他> ・コミセンの予約のオンライン化を検討している。 ・新事業を企画する際、他のコミセンにない事業をやりたいと考えている。例えばコンサートなど、交渉や打ち上げに経費がかかる。 ・市報に掲載した事業は、ムーバスにポスター掲示できないというルールを見直してほしい。	

全体に共通する論点について					
第1 比較 的短 期間 で解 決が 目 指 せ ら る 事 項	論点（キーワード）	中央	西久保	緑町	八幡町
	1 周知・広報(コミセンの認知度等についての市への要望) ■ コミセンの存在の周知 ■ ボランティア運営であることの周知			・16コミセンが全て同じ運営をしていると思っている人や、市役所の職員だと思っている人がいるので、そうではない実態を、市長や副市長からも積極的に発信してほしい(市報とか新春の挨拶など)	・コミセンについてもっと市民や職員に理解してもらえるような広報や取り組みをしてほしい。
	2 営利・非営利の考え方の整理 ■ 営利／非営利の判断の指針の提示 ■ より柔軟な考え方の許容	・各コミセンで営利利用の基準が異なるとクレームのもとになるので、市に決めてほしい。			・SNSやYouTubeの動画撮影目的など、営利と非営利のボーダーラインで悩むことがあるので、判断の指針が必要。
	3 手当について ■ 手当の増額		・窓口手当の時給増を図ってほしい。 ・ある程度の専門性と責任感を要求され、窓口業務を補完する管理業務には残業代をつけてほしい。 ・若い人に金額で忌避されている。	・時給ではなくボランティア手当なので、「人と関わりたい」という人でないと難しい。	
第2 持 続 的 に 検 討 が 必 要 と 思 わ れ る 事 項	4 庁内各課との相互理解について ■ 市民活動推進課以外の職員のコミセンへの理解 ■ 庁内調整	・職員が月に1回くらいコミセンをまわり、少しの時間でも窓口にて、現状を確認してほしい。			・市民活動推進課以外の職員が、コミセンの運営方式を理解していないと感じることがある。 ・市民のほか、職員の理解も重要。
	1 ボランティア活動への評価(やりがい) ■ コミセン運営の特徴やすごさのPR ■ ほめる			★市報に、コミセンへの市長の想い(ボランティアで頑張っていることなど)を載せてほしい。 ・ボランティアでコミセンを運営するのは結構大変で、それをもっと評価してほしい。 ★長年関わった方等が辞める際、市から感謝状があっても良い。	
	2 人材の確保・拡充 ■ 人材の確保・拡充 ■ 年齢層の偏り ■ 企画力のある人材がほしい ■ 若年層へのアプローチ ■ 学生の活躍 ■ 窓口担当の人数不足(やりくりが負担) ■ 多様な参加方法の取組み	<人材募集> ・イベントへの協力も時間拘束が長いと人が集まりにくいのが課題。 ★「2時間だけお願いします」など声掛けを工夫。 ★広報誌や、窓口で声掛け等で運営委員を確保。 ・昔からコミセンを利用している人は、声掛けで気持ちよく手伝ってくれるが、新しい利用団体は難しい印象。 ★子ども向け事業には極力親子で来てもらい、申込みの際に協力員の勧誘。 ・1回やると楽しかった、やりがいがあるとあって、また手伝ってくれる。 <若年層> ★子育て世代の団体に声掛けしてイベントを開催してもらった。 <窓口担当> ・2施設の2名体制を17名でなんとかまわしている。 ・長期に誰かが休むと厳しい。	<人材の偏り> ・コミセンの場合役員の能力に偏りがあり、やる気、能力の偏りがある人の適正配置が難しい。 ・運営委員の高齢化に伴い力仕事、高所での作業に人手が不足	<人材募集> ・運営委員の人材不足が課題 ★協力員で時間がありそうな方を、運営委員に勧誘することがある ★規約を変更し、住民総会でなくても毎月の運営委員会の承認で運営委員になれるようにした ★一時的な関わりでも、いずれ戻ってくることを期待し、関わってもらうことを大切にしている <例> 仕事の都合等で運営委員を続けられない方も名前だけ残り、できる範囲での関りをもってもらっている(年1回の手伝いや、窓口担当はできない高齢者にご意見番として時々運営委員に顔を出してもらうなど)。 <窓口担当> ★本来4時間のところ、2時間交代など柔軟に対応している	<人材募集> ★運営委員の募集は、コミセン便りに、仕事の内容や条件を具体的に載せるのがコツ。 ★スポットで手伝ってくれた方を声かけて参加してくれることもある。 <学生> ・大学生の運営委員が複数名。中学校のママさんが運営を支えている。 ・世代のギャップもあるが、トライを大切に、よく話合うことで調和をとる。世代間交流は楽しいだけでなく、他の世代には無い助言などメリットがある。 ★運営委員の子どもが小学生のうちに、世代の担い手を捜すことを地道にやってきた。 ★できる範囲の時間帯や内容で対応してもらうように最大限配慮し、手伝える時に手伝ってもらえれば良い、窓口担当も代わってもらうのが容易という雰囲気づくりを徹底。
	3 事務・責任の負担 ■ 役員の負担 ■ 事務負担 ■ 事業を企画する負担	<事務負担> ・役員の仕事量が増え、役員のなり手がない(フルタイムで働いていると抱えない)。 ・新しく運営委員になっても負担が大きくて定着しづらい。 ・市への提出書類が大変で、ボランティアの域を超えてきている。 ・デジタル化されても、ついていけない。 ・役員とは別に、書類作成専用の別担当が欲しい。 <責任負担> ・何かあったときに「自主三原則」で市から突き放されると困る。	<事務負担> ・PC操作や、書類作成、見積取得など、事務的な業務に慣れていない人が多く、一部の委員に負担がかかっている。 ・地域に貢献したい思いで参加したが、任される業務が増え、ボランティア精神だけでできるものではない。 <責任負担> ・協議会が地域内で、ある意味で住民を代表する団体と見られていることが正当なのか、正当なら我々にその自覚はあるかについて問題。		
	4 多様な利用者への配慮 ■ 利用条件の統一化			・16コミセンで最低限、共通する大まかなルールを作ることはできないか ・利用者から「あっちではできた」と言われることもある	
	5 ボランティアに関する意識の変化 ■ 興味のあることだけをやりたい意識	・「自分達がやってあげたいこと」がボランティアで、強制されてまでやることはボランティアではない」という声があり難しい。 ・最近始めた方に「それはボランティアの範疇か」と考える方が増えている。 ・今は興味の無いことや、拘束時間が長いと手伝ってもらえない。	・ボランティアの場所だから関わり方は人それぞれ ・事業の中で楽しめることをやってもらうことが大事		
	6 企画づくり ■ 各協議会の工夫 ■ 地域住民の声の吸い上げ	・個々に責任をもって取り組める程度の仕事を振っている。 ・ブース別に割り振っていても、イベント中に他のブースのことも目配せしてくれるため、ブースを変えてもある程度スムーズにやってもらえている。		・何かをやろう！となったときの運営委員のエネルギーは大きい。 ・緑町は、コミセンと地域の関わりにも歴史がある。千川小学校の建て替えや、クリーンセンターの建設など、様々なことが起こるたびに誰かが音頭を取って話し合い「みんなで作った町」という基礎がある。 ・地域を良くしようという人の集まり。その気持ちが無いとコミセンは動かせない。知恵と努力と協力が大切。	・移転前にはやり辛かった子どもを中心としたイベントが多い。 ・明るいロビーに初めて入ってもらいやすいようなイベントをやっている。
	7 外部との連携・交流 ■ 利用者との交流 ■ 地域団体との連携	・コミセンの活動を知ってもらうため、地域団体や利用団体にも自主事業に参加してもらっていることを誇りに思う。地域社協や第一中学校のPTAや生徒なども参加。 ・去年から地域の団体に声掛けし、意見交換をしようと呼んでいるが、集まる団体も多くなか難しい。	・地域の他団体と積極的に協力し提携をはかっている(ナイトハイク、ふれあいまつり等)。		・地域の団体との調整窓口の担当を決めて、普段から連絡を密にしている。 ・コミセンの関係者が各団体の役員になっているケースもある。
その他	<その他で挙げられたテーマの例> ■ 広報(市報、市HP、SNS、コミセンだよりなど) ■ 組織特性 ■ 協力員 ■ 地域特性	<庁内調整> ・公共施設の改修がある際など、利用者が流れてくること等をコミセンに情報共有してほしい。	<地域特性> ・西久保は公共施設がここしかないため、地理的に集まりやすい条件が揃っている <設備> ・冷暖房設備の経年劣化があり、更新を希望する。	<問い合わせ> ・運営委員であればこのくらいは関わる、などの目安があると良いのかどうか、難しい。 ・定年はあった方が良いのか、それとも個人の意思なのでない方が良いのか、難しい。	<SNS利用> ★SNSでイベントの案内をしている。 ★市報掲載には事前に手続きが必要だが、SNSを利用すれば機動的にイベント開催ができる。

全体に共通する論点について					
論点（キーワード）		関前	西部	境南	桜堤
第1 比較的短期間で解決が目指せそうな事項	1 周知・広報(コミセンの認知度等についての市への要望) ■ コミセンの存在の周知 ■ ボランティア運営であることの周知	★転入の手続きの際に地域団体の情報を伝えるとか、システマティックに誘う仕組みが欲しい。 ★認知度を高めるため、コミセンのPRを市民課と共に取り組めないが。		・広報紙、HPを見てくれる人はいるが、コミセンを知らない人もいる	
	2 営利・非営利の考え方の整理 ■ 営利／非営利の判断の指針の提示 ■ より柔軟な考え方の許容				
	3 手当について ■ 手当の増額		・電話にて大学生から窓口応募があったが、手当の話をしたところ切電された。	・報酬が最低賃金と比較して低い。 ・窓口の若返りのために増額が必要。 ・インセンティブとして手当は重要。	
	4 庁内各課との相互理解について ■ 市民活動推進課以外の職員のコミセンへの理解 ■ 庁内調整	・市は協議会に対して、自主三原則を理由に、介入したりしなかったり中途半端な対応をしている。			
第2 持続的に検討が必要と思われる事項	1 ボランティア活動への評価(やりがい) ■ コミセン運営の特徴やすごさのPR ■ ほめる				
	2 人材の確保・拡充 ■ 人材の確保・拡充 ■ 年齢層の偏り ■ 企画力のある人材がほしい ■ 若年層へのアプローチ ■ 学生の活躍 ■ 窓口担当の人数不足(やりくりが負担) ■ 多様な参加方法の取組み	<人材募集> ・担い手不足の問題がある一方、事務量は増えている。地域住民から「あんな大変なことはできない」と思われ、ますます手が減る。 ・戸建てが多いと、集合住宅よりは誘いやすいが、それでも誘うのはなかなか難しい。 ★広報誌の定期発行(2か月に1度、年6回)とHPによる広報 ★利用者懇談会(利用者団体やヘビーユーザーに声掛けて年1に1度開催) ★関前ミュージックフェスティバル(音楽室利用者の発表の場を提供) ★窓口担当は定年制だが、人員確保のため弾力的に運営し、定年超過の方に毎年、延長をお願いしている。 ★運営に必要なスタッフの確保や人材のスキルアップ教育を市で担ってほしい。 ★現場へ市職員を投入すべきではないか。	<人材募集> ・担い手不足。休館中に運営委員が離れてしまうことが心配。 ・子どもの成長につれコミセンの手伝いから離れてしまう。 ★運営委員会を夜間に開催する等、参加しやすい工夫。 ★規約を変更し、住民総会でなくても毎月の運営委員会の承認で運営委員になれるようにした。 ・運営委員の上の年代と下の年代の間に inser 若い層を増やしたい。 <企画> ・高齢者向けの企画の要望を受けるが、運営委員が興味ある事をやっているの、自分で企画・開催したら良いのでは？と思うことがある。 <中高生> ★児童青少年課に相談し中高生ボランティアにイベントの手伝いをしてもらった(知り合いの子に声をかける場合もある)。 ・ボランティアの中高生が、次の機会にまた参加してくれることがあった。 ・いかに楽しく取り組んでもらえるかが課題。	<人材募集> ・イベントへの参加者は多いが運営に引き込むのは難しい。 ・運営委員会・協力員の人数は確保されている(不足気味ではある)が、主なイベントでは同じメンバー・参加者が多く固定化の傾向あり。 ・コミセンに関わる人の高齢化。 <若年層> ★若い人を積極的に入れるために、親子に興味を持ってもらえるようなアットホームなイベントの開催。 ★垂細亜大学のボランティアセンターを通じて、学生に来てもらった。	<人材募集> ★次につなげるため、「来年もよろしくね」という声かけ ★人を通して推薦してもらおうと安心 ・イベントに参加してもらって興味をもって入ってもらえるといい。 ・子どもが中高生になるとお父さんの時間は空いているので声がけしている。 ・ボランティアは家族の理解がないと続けられないので、強制しないよう気を付けている。 ・今、中間層が空いている。若い男性が少ない。 <事務負担> ・フルタイムで仕事をしながらの役員は厳しい。 ・運営委員になると役員や会長になるのは全然違う。 ・役員の仕事を運営委員に振り分けるなど業務改革を実施しているが課題。
	3 事務・責任の負担 ■ 役員の負担 ■ 事務負担 ■ 事業を企画する負担	・個人への過度な負担はやりがいや楽しさの実感を奪う。 ・役員をやらされるなら運営委員を辞めるという声もあるほど。 <事務負担> ★得意な役員が使いやすいシステムをつくったが、本来、そうしたシステムを16コミセン共通で構築するべきではないか。 ・webサイトの統一フォーマットをつくってほしい。 ・市には報告等の事務量を極力減らしてほしい。 ・書式を理解するところから大変。 ・情報セキュリティ関係の徹底は難しい。			
	4 多様な利用者への配慮 ■ 利用条件の統一化	・コミセンごとにルールが違うことが統一的な対応の妨げになっているかもしれない。			
	5 ボランティアに関する意識の変化 ■ 興味のあることだけをやりたい意識				
	6 企画づくり ■ 各協議会の工夫 ■ 地域住民の声の吸い上げ			・地域住民の要求の汲み上げ・満足度判断は十分には出来ていない	・部屋のスタンプリヤーやパフォーマーを呼ぶなど、子どもを呼びさっかけづくりをしている。 ・1回限りでなく、継続して利用してもらえるようにしたい。 ・交通事情を踏まえ、親子で来てもらえる企画も考えた。
その他	7 外部との連携・交流 ■ 利用者との交流 ■ 地域団体との連携	・地域イベントに実行委員として参加し地域コミュニティと連携。 ・地域のつながりが強く、地域の運動会、花火大会なども続いている(特にクレームなどもない)。地域的に保守的で、まだ続けたいという思いがネットワークが残っている理由だと思う。ただ、大変になってきている。	・各団体を兼任している人が多いので、ネットワークとの繋がりを大切にしている(コロナで途切れた繋がりを再構築する必要がある) ・利用者懇談会も開催しているが、サイレントクレーマーは何も言わずに去るので、意見が聞けない。		・桜堤児童館がR7休館のため、力を借りて子ども向けの事業を企画したい
	<その他で挙げられたテーマの例> ■ 広報(市報、市HP、SNS、コミセンだよりなど) ■ 組織特性 ■ 協力員 ■ 地域特性	<コミセンだより> ・コミセン便りを配ったところ、メールでチラシを入れるなどというクレームあり。 ・コミセン便りは市報に準じる大事な媒体だと市としても言えるのではないか。	<組織の特性> ・前例踏襲を求められるのが辛い(分からない人が出るから、負担だからなど(デジタル化とか))。 ・運営委員同士で話す機会を増やすことが大切。 ・若い人が入りやすくするためにも、運営委員の役割等の固定化が緩むといい。そのためには、研連等で年代別に交流の場がほしい。 <その他> ・目立つ看板表示が欲しい。 ・改修に対するマニュアル等を作れると良い。	<組織の特性> ・境南コミセンの運営委員は各団体からの選出。この形式を守らないと地域のコミセンにはならないと思う ・境南コミュニティ協議会は各団体の代表が集まっているので組織的。 ・地域としてのまとまりのある点(学校区域と重なっている)が長所である一方で、閉鎖的になるという側面もある。 ・開かれたコミセンにしたい。	<その他> ・夜間利用が少ないため、9時から21時まで開館しているところ、20時までには短縮できないか。